



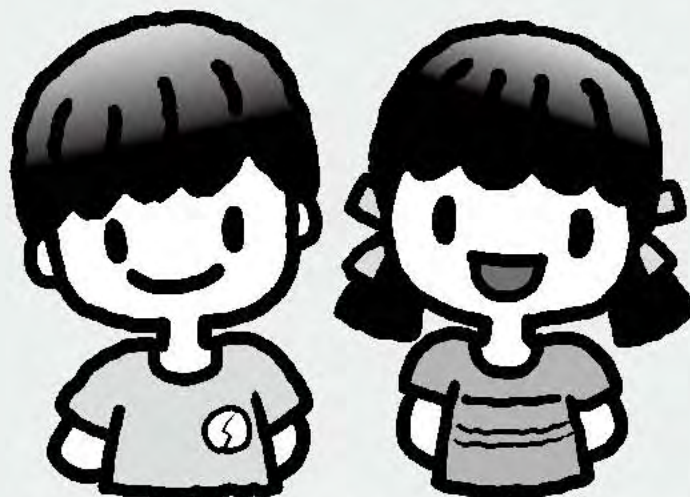
2009

合同教育研究 全道集会

平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立をめざして

2009. **11/13**[金] → **11/15**[日]

大切にしたいね、
子どもと教育



子ども・青年の未来に希望をはぐくむために
憲法・子どもの権利条約の息づく学校と社会を

■主催 2009合同教育研究全道集会実行委員会 ■連絡先 事務局(北海道高等学校教職員センター内)

〒060-0042 札幌市中央区大通西12丁目 ☎(011)231-0816 FAX(011)241-8510

www.goken-hokkaido.jp

ごあんない

～共に学び、考えましょう！～

合同教育研究全道集会(全道合研)は「平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立を目指して」、1976年の第1回開催以来、広く道内の教育関係者、父母、市民が集い、30年をこえる歴史を刻んできた教育研究集会です。

今年の集会は、貧困と格差拡大が子どもたちの就学と進路をおびやかす深刻な事態のなかで開催されます。自己責任の一言で片隅に追いやられてきた教育の機会均等の重要性に多くの国民が気づきはじめ、教育費負担をめぐる国民世論に大きな変化が生じています。

一方、教育基本法改悪の総仕上げとして、全ての学校種で学習指導要領の改訂が行われました。小学校では今年から移行措置期間となり、全面实施と言ってよい程の前倒し実施が強行されています。学力テスト体制や教員免許更新制の本格実施と相まって、子どもたちや教職員を「競争」へと駆り立て「管理」によって締め上げるなど、教育現場の息苦しさは続いています。

政権交代を要求実現のチャンスと捉え、国民の切実な要求とがみ合った選挙公約を後退させることなく実現させることが求められます。そのためには、教職員、父母、市民、子ども・青年が子どもと教育をめぐる「対話」と「共同」のとりくみを広げていくことは重要です。「子ども・青年の未来に希望をはぐくむために」、全道合研に集い、語り合きましょう！「憲法・子どもの権利条約の息づく学校と社会を」築き上げるために、各学校・地域の実践と運動の蓄積を全道合研にもちより、共に学び、考えましょう。

～ 2009全道合研の基本的課題～

◎教育基本法が改悪された情勢のもと、改めて47教育基本法の精神を教育実践に生かす取り組みが求められています。憲法の精神と教育条理に則り、「平和と非暴力の文

化」を地域から築いていく決意を確認し合しましょう。憲法、子どもの権利条約、ILO・ユネスコ教員の地位に関する勧告を守り生かすことが、世界と日本の未来、子ども・青年の未来をきりひらくことと確信しましょう。

◎「教育改革」の矛盾を明らかにし、貧困と格差拡大を打開する道をさぐる。

◎子ども・青年をめぐる問題を多面的に明らかにし、その姿の奥にある子ども・青年の願いを読み解きましょう。子どもの権利条約の精神に基づき、社会、地域、学校、家庭の責任と役割を見つめ直すことを通じて、子ども・青年の成長・発達への確信を共有しましょう。貧困と格差拡大を打開する道をさぐりましょう。

◎政府の「構造改革」路線と一体に進められている文部科学省の「教育改革」の矛盾とゆきづまりを明らかにし、新自由主義・新国家主義的な教育政策に反対する運動を強めましょう。教育関係者と父母の共同、市民の連帯を広めて「競争」と「管理」によって教育をゆがめようとするさまざまな攻撃をうちやぶり、どの子ども・青年にもゆきとどいた教育を実現するための展望をきりひらきましょう。

◎子ども・青年の願い、父母・国民の教育要求にもとづき、基礎学力と人間的な成長を保障するための授業づくり・教育課程づくり・学校づくりをすすめましょう。学校づくりの当事者である生徒、保護者、教職員、地域住民による「対話」を基礎に、参加と共同の学校づくりを前進させましょう。

◎管理と統制が強化され、多忙化が進む教育現場の実態を見つめ直し、改めて自主的・創造的な教育研究活動の重要性を確認し合しましょう。教職員同士が児童生徒の実態と学校・職場の課題を率直に語り合い、日常的に学び合う関係を回復しながら、教育実践・教育活動の蓄積の掘り起こしをすすめましょう。保護者・地域との共同によって研究活動の新たな発展を築き上げましょう。

集会日程

	11 / 13	11 / 14	11 / 15
9:00			
9:30		受付	受付
		特別講演	分科会
12:00			昼食
12:30		昼食	
13:00			分科会
13:30			
14:00		分科会	
15:00			
17:00	受付		
17:30			
18:00	教育の夕べ	特別講演	
19:30			
21:00			



教育の夕べ

11月13日(金)

17:30~21:00

■かでの2.7

札幌市中央区北2条西7丁目

高校演劇

開会あいさつ基調報告

記念講演

『学校は生きる希望』

福井雅英さん

(北海道教育大学札幌校)

テーマ討論・特別講演

11月14日(土)

テーマ討論 9:30 ~ 12:30・特別講演 17:30 ~ 19:30

■かでの2.7 札幌市中央区北2条西7丁目

テーマ討論

①子どもたちにこんな学力を

コーディネーター

前田 賢次さん(教育大札幌校)

②教育費の無償化を考える

コーディネーター

大澤 眞平さん(北海道大学)

③教師の力量形成と教員免許更新制 コーディネーター

光本 滋さん(北海道大学)

④世界の先住民族を考える

運営

人権・民族と教育分科会のみなさん

⑤若者支援と「特別支援教育」

~それぞれの実情を考える~

コーディネーター

二通 諭さん(札幌学院大学)

特別講演

「ジェンダーからみた

社会・教育」

中園桐代さん

(釧路公立大学)

■かでの2.7



参加される方へ

■かでの2.7

第1分科会~第24分科会

- 「教育の夕べ」は¥500の参加費が必要です。
- 分科会は2日日程ですので論議を深めるためにも2日間の参加を原則としてください。
- レポートは、加盟団体を通じ、または個人でも、氏名・所属・レポート名を10月26日(月)までに合研事務局に申し込んでください。(電話可)
- レポート印刷数はこのリーフの分科会案内に掲載してある分科会ごとの数を用意してください。そのうちの10部は11月4日(水)までに事務局に送ってください。残りのレポートは当日分科会に持参してください。
- 会場には保育所を用意しています。
- 障害のある方の参加については会場準備の関係からあらかじめ事務局にご連絡下さい。

レポートの作り方

1. 教職員の日頃の実践や子ども・地域との共同、父母から見た子ども・教育の様子などの簡単なものでも結構です。是非レポートを持って参加してください。
2. 形式は問いません。以下の点をお願いします。
 - ・表紙にレポートテーマ、分科会 No.、所属・氏名を明記すること。
 - ・ページが多い場合は目次、ページ番号を記入すること。
3. プライバシーの権利を侵害するおそれがある場合は、実名の記載は避けてください。実名を出さない場合でも報告(レポート)の脈絡から個人が特定されないよう十分に配慮してください。
4. レポートは原則的に閲覧の形で報道関係者に公開します。プライバシー保護のため非公開を希望する場合は、表紙に明記してください。
5. レポートの発表は分科会の運営上一定の時間制限されることもありますのでご了承ください。
6. 提出レポートは「北海道の教育2010」に収録されることがありますので、ご了承ください。

分科会

11月14日(土)

13:30 ~ 17:00

11月15日(日)

9:30 ~ 15:00

1

国語教育

レポート数
(50)

国語教育は、子どもたちに日本語の知識とそれを使いこなす能力をきちんと身につけさせ、それらの力をもとにして言葉の背景にある生活や現実の意味を深く学ばせる教育です。

この国語教育を充実させるには、まず、子どもの発達をうながすような質の高い教材の発掘と研究、さらに、言葉と現実との結びつきを大切にしながら子どもと教師がともに学ぶ「楽しくわかる授業」をどうつくりだすのかなどの研究が中心的課題になります。

近ごろ、内容の伴わない表面的な活動や交流を強調して、すべての子どもには学力を保障しきれない傾向が学校に広がっています。平和教材のあり方と指導法についても明らかにするとともに、子どもに真の生きる力を育てる「授業づくり」の原則を明らかにしてゆきましょう。

共同研究者

荒木美智雄（長沼高校）

茶森 茂樹（檜山教組）

馬場 雅史（札幌南陵高校）



2

外国語教育

レポート数
(40)

近年、学習指導要領が更新されるたびに外国語教育の目的が「実用性」に矮小化されつつあります。しかも、教職員評価や査定昇給で脅しながら、文科省は教職員の能力を問おうとしています。高等学校版改訂で話題になっている「授業は英語で行うこと」にもその一端がうかがえます。しかし、どのような反省に基づき、教基法にある「人格の完成」がどのように達成されるのか明言されたでしょうか。そして、教育現場で日々生徒と共に学ぶ者の視点で、この本質を捉えなおす必要がないでしょうか。今回の改訂は小学校でも「英語活動」が導入され、小中高大の連携がより一層求められます。本研究会は、そういった多様な教育機関に携わる私たちが一堂に会することができる場。参加者で互いの悩みを共有し、連帯の輪を広げ、文科省の脅しに負けない教育理念と信念を共有しません

か。そして、明日から現場で戦う英気を養いましょう！

共同研究者

小山内 洸（元教育大釧路校）

鈴木 史朗（元教育大釧路校）

杉山 謙司（大通高校）



3

社会科教育

レポート数
(50)

教育は子どもの未来を切り拓くもの、子どもは未来の社会をつくる担い手、そして何より、教育の主役です。しかし、教育をはじめ現実の社会には問題が山積しています。なかでも、貧困・格差社会の現状は、子どもの学習権を著しくおびやかします。

これらの社会問題の多くは社会科教育の教育内容につながります。こんな時代だからこそ、社会科の使命は大きいのです。社会科は、民主主義・平和・人権保障の実現のあり方を考え、明日を生き抜く賢い知恵を子どもたちと編み出していく教科です。

多くの社会問題に教育という手段で対峙するために、集まって交流しましょう。そして子どもたち・私たちの未来を切り拓く授業をともに考えつくろうではありませんか！

共同研究者

伊藤 雅康（札幌学院大学）

山本 政俊（音更高校）

平井 敦子（真駒内中学校）

前田 輪音（北海学園大学）

4

数学教育

レポート数
(50)

数学の魅力がなかなか伝わらない現状を憂えているあなた。子どもの苦しんでいる姿に心を痛めているあなた。日々の努力にもかかわらず進む方向が見えなくなってしまったあなた。

ともに集まって希望の光を見出そうではありませんか。

この分科会では、リアルな現状分析もあり、教えるべき良質な数学への探求があり、子どもと共に作り上げる楽しい数学の語りあいもあります。

何よりも、自ら数学教育を創造しようという明るい雰囲気があります。

教員（幼稚園～大学）、父母、市民の方の参加を心から歓迎します。

共同研究者

須田 勝彦（北海道大学）

真鍋 和弘（札幌篠路高校）

吉田 陽一（札幌市立みどり小学校）

成田 収（静内高校）

高橋 哲男（稚内北星大学）

5

理科教育

レポート数
(40)

理科分科会は、例年、実験教具の開発、ユニークな教材の紹介、学力低下、日頃の実践上の悩みなど、若い教師たちが学べる分科会づくりを目指して、白熱した討論・質疑で盛り上がっています。今年、これまでの成果を引き継ぎながら、

- (1) 子どもが楽しみながら自然科学の基礎を着実に学ぶことができる授業をどのようにつくるか。
- (2) 子どもと教師の意欲を引き出す、わくわく実験・ものづくり教材をどのように開発するか。
- (3) 「地域の自然」をどのように教材化するか。
- (4) 科学リテラシーを身につけることができる教育課程づくり。

という4つを柱にすえて、討議を深めていきたいと考えています。特に学習指導要領の改訂にともない、私たちの教育課程づくりという視点からも討議をします。

また、楽しいものづくりや、誰にでもできる実験の紹介も企画しています。どんなレポートでも気楽にお持ち込みください。またレポートが無くても、明日からの授業に活かせるネタを仕入れにぜひいらしてください。

共同研究者

大野 栄三（北海道大学）

田中 邦明（教育大函館校）

田中 実（教育大札幌校）



6

美術教育

レポート数
(35)

現行の教育課程は美術の授業数を減少させ、子どもたちの造形に対する体験を希薄なものにしてしまいました。この事は図工や美術における子どもたちの造形

能力だけではなく、生きる上で必要な想像（創造）力をも減少させてしまいました。「学力向上」は現在の教育における大きな命題となっていますが人格の完成という観点において、子どもたちの感性を拡張する美術教育は欠く事のできない重要な役割を担っていると私たちは考え、現在まで研究協議を行ってきました。美術教育は地域と子どもたちの実態に即し各現場で工夫を凝らし多様な実践を展開しています。今回も子どもたちの作品を中心とした様々な実践の交流と共有をする事で更に実践を深める事ができるよう、美術が専門であるなしに拘らず多くの方の参加をお待ちしています。

共同研究者

- 福田 好孝（岩内高校）
- 十河 幸喜（江差高校）
- 上野 秀実（釧路江南高校）
- 本庄 隆志（倶知安高校）



7 書教育

レポート数
(25)

格差社会の影響は、書教育の世界でも影響が出ています。以前は、そろばんと習字が塾の定番だったものですが、習字塾の経験者がめっきり減っています。もちろん、塾の力に依存するつもりはありませんが、古くからの地域教育力の一つが崩壊しつつある現実を認識する必要があります。

日本人の内言の発達が遅れているという報告も見逃せません。家庭状況が影響しているのは明らかです。

そのような中、書教育分科会には、毎年たくさんの子どもの作品が並べられます。皆それぞれに、違った顔を持っています。子どもの顔が、たくさん作品から浮かび上がります。まさに、「みんな違って、みんな良い」のです。

私たちは、そのような作品を通して、子どもたちの現在を知り、未来を模索しようとしています。会場一面に並べられた、子どもたちの表情を見に来ませんか？

共同研究者

- 野坂 武秀（音更高校）
- 伊丸岡圭一（旭川東高校）
- 矢野 敏文（教育大旭川校）

8 音楽教育

レポート数
(25)

音楽は、人が豊かに生きていくために欠かすことができない文化です。現在小学校から高校までの学校教育において音楽の授業時間数が減らされて久しいのですが、音楽を通じて子どもの生きいきとした姿を様々な実践交流の中で明らかにすることによって、音楽教育の重要性をアピールしていくことが大切でないでしょうか。

子どもの成長発達の面で音楽が大事な役割を果たし、音楽を通して子どもが成長していくことを様々な実践発表の中からいねいに読み取る。そして、分科会参加者の財産にしていくことをめざします。

ささやかでも、ぜひ多くの実践を持ち寄り交流し学び合い、励まし合う分科会にしましょう。

共同研究者

- 佐藤 重夫（北海道音楽の会）
- 野村 公（元教育大岩見沢校）

9 技術・職業教育

レポート数
(40)

現在の社会環境問題（食の安全・くらしの安全・労働問題・拝金主義の横行や企業モラルの低下）を見ると、技術・職業教育の必要性がますます輝きを増します。

中学校の技術教育においては、団塊の世代の大量退職やニート・フリーター問題に代表される雇用形態の変化による技術の継承問題など、ものづくりの重要性が社会問題となっているにもかかわらず、教育現場においては軽視され続けています。

高校職業学科では、普通科志向が強まる中で、職業教育における学力問題や特色づくり、統廃合問題にさらされるとともに、その必要性が問われています。

実践を持ち寄り、今後の技術・職業教育についての議論を深めましょう。

共同研究者

- 倉部 静雄（函館商業高校）
- 上原 慎一（北海道大学）
- 横井 敏郎（北海道大学）
- 佐々木貴文（函館短大）



10 家庭科教育

レポート数
(40)

ようやく日本でも、「子どもの貧困」が注視されるようになってきました。OECDの報告によれば、日本の子どもの貧困率は14%を超え、ひとり親家庭の場合の貧困率は6割近くにもなります。日々の暮らしと向き合う家庭科が子どもの抱える生活の困難にどのように迫るか、重く大切なテーマと私たちは対峙しています。

これまで家庭科では、子どもを現在と将来にわたる「生活の主人公」に育てる、すなわち「生活課題に主体的にとりくむ認識と技と意欲を育てる」ことを大切にしてきました。

いま、「生活の主人公」を育てる家庭科の授業をどのようにつくり上げていくか、参加者のレポートをもとに、またこれまでの実践の蓄積を掘りおこしながら、大いに意見交換したいと思います。皆で明日の家庭科をつくり上げていきましょう。

共同研究者

- 青木香保里（愛知教育大学）
- 増淵 哲子（教育大札幌校）
- 川邊 淳子（教育大旭川校）
- 伊槻久美子（札幌白陵高校）



11 保健・体育教育

レポート数
(45)

保健室へ入室する子どもの心身の課題が多様化し深刻さを増しています。貧困課題が子どもたちの健康問題に影響を与え、また、ケータイやインターネットによるトラブルや事件等の低年齢化。さらに、指導上特別な配慮を要する子どもも増加傾向にあり、保健室から見える子どもたちのようすを子どもの抱えている困難や発達の苦悩として受け止め、どう支え合っていく等の取り組みを持ち寄り交流しましょう。

また、体育における「めあて学習」や新指導要領の課題と問題点を明らかにして、すべての子どもたちが身につけるべき共通な力（体育の学力）をさぐっていききたい。小学校での実践はもとより、中高生の実態と共に授業・体育的行事・部

活動を交流して、大いに学び合い、励まし合う分科会にしましょう！

共同研究者

大瀬 隆 (札幌学院大学)
中島 義夫 (中標津町養老牛小学校)
種市 倫江 (砂川市豊沼小学校)
長野喜美子 (八雲高校)



12

総合学習・生活科

レポート数
(30)

学習指導要領の改訂と、前倒しの実施がはじまり、「総合的な学習の時間」は新たな局面をむかえつつあります。読み書き算に極端に傾斜した「学力」の強調から教科時数が増え、「総合的な学習」は削減されながらも、そこで付ける力や教科や諸領域との関連を明確にする方向性が打ち出されています。分科会で数年来議論してきた総体としての「学力」の具体像や質の追求は、いまこそ意味を持つものと姿えられます。さまざまな矛盾が現実の姿をとって私たちの日常に散見される時代に、教師は教育課程設計の指標として、何こそ学ぶべきなのか共に議論したいと思います。

共同研究者

薦保 収 (元小学校教諭)
前田 賢治 (教育大札幌校)
荒井 眞一 (北海道大学)

13

教育課程と子ども の学力評価

レポート数
(35)

私たちがこれまで議論を積み重ねてきた「教育課程づくり」のあり方は、子どもの実態に即して各地域・学校で自主的に組み立てられるというものでした。また、各学校・教職員の創意工夫が生かされることで「教育課程」に一層の厚みが増すものであることも、この分科会で実践的に証明されてきました。

「人格の完成」に資する確かな学力を子どもたちに身につけてほしいという、保護者・地域の願いに応えるため、教職員が子どもたちを中心に据え生き生きと活動させながらの実践がこれまで報告されてきました。

それぞれの実践の切り口は違いますが、そこに通底している、「子どもを丸ごととらえる」、「子どもの発達の可能性

に信頼を寄せる」ということに参加者が大きく励まされ、次の実践の手がかりをつかんでいます。

改訂学習指導要領の移行期であるからこそ、子どもたちの「学びたい」という要求に応える「教育課程」を、子ども・保護者・地域とともに自主的・創造的につくりあげていくことが求められています。

各校独自の教育課程づくりのヒントを学びに来てください。

共同研究者

三上 勝夫 (元教育大札幌校)
今泉 博 (教育大釧路校)

14

学校と家庭 の生活指導

レポート数
(50)

幼さで周りの子となじめなく、授業が成立しない小学校低学年。家族関係や生活の違いで生まれる問題で悩む小学校高学年。高校進学が狭まり自分を見失う中学生。地域経済の崩壊で生き方に行き詰まる高校生。様々な保護者の要求が持ち込まれる学校。子育てで孤立する保護者。

『格差社会』が生んだ『貧困』は子どもの発達を妨げ、『自己責任』の一言ですまそうとしています。

今、子どもたちの『生活』は憲法で守られている平和的で文化的な生活とはかけ離れています。

今こそ、子ども・青少年をまん中にして、大人がつながりましょう。

子どもたちを応援し、共に「豊かな人生」をつくり出すための糸口を語り合しましょう。参加をおまちしています。

共同研究者

竹田 正直 (北海学園大学)
橋本 尚典 (あいの里東中)
黒谷 和志 (教育大旭川校)



15

教育条件 確立の運動

レポート数
(45)

貧困と格差がひろがり、就学援助費や義務教育費国庫負担の削減によって、子どもと家庭に犠牲が一層及んでいます。

「構造改革」・「財政再建」の名のもとに進める新自由主義的改革と教育政策は、憲法が掲げる「教育の機会均等」の原則を踏みにじり、教育の競争激化と選別切捨てを強めています。「行政改革」を進め

る高橋道政は、学校統廃合を強引に行ない、中でも他の地域への通学は困難とされる浜益高校の募集停止を強行しました。

昨年の分科会では、道財政の問題点を明らかにしたレポート、高校統廃合、特色ある学校づくりと称した高校多様化政策の押しつけが地域では破綻しているなどを明らかにしたレポートが報告されています。また道立学校現業職の民間委託の導入によって学校給食の実施が危ぶまれるなどの報告も出されました。「ゆきとどいた教育」を求める運動の意義をまじえながら、更に交流を深めたいと思います。

共同研究者

栗野 正紀 (教育大札幌校)
菊地日出彦 (拓北養護学校)
松野 修江 (札幌南陵高校)



16

子ども、父母参加 の学校づくり

レポート数
(40)

子どもたちは、勉強がわかり、友達と楽しく過ごすことができる学校を求めています。その願いは、保護者はもちろんのこと、教職員、教育関係者、そして、地域・住民の教育への願いでもあります。その願いに応えるためにも、いまの学校がかかえる課題を明らかにして、「子どもたちが主人公、保護者・教職員が共同する学校づくり」を求めて交流し学びあうことが大切です。

この分科会は、これまで北海道各地の学校づくりの実践・財産を蓄積してきました。同時に、子ども、保護者、教職員、現業職員、教育関係者など、様々な角度から「子どもたちをどう育て、学校をどうつくるか」の話し合いをすすめてきました。上からの教育改革の現場であらわれ方や、子どもたちの実態、教職員や保護者の共同について大いに交流し学びあいましょう。

共同研究者

上ヶ島哲雄 (旭川市愛宕東小)
深谷 哲也 (北星余市高校元校長)
廣田 健 (教育大釧路校)

17

地域における 子育て・学習運動

レポート数
(35)

教育基本法改悪は教育現場に諸々の苦悩を広げているが、家庭教育条項を加え

たことで従前にもまして子育て責任が父母に強いられることになりました。格差・貧困拡大が社会・家庭を覆うなか子育ての悩みは深刻です。

バラバラにされた親たちが手をつなぐ学習と活動の場がより強く求められ、子育てネットワークの役割がますます重要になっています。また「教育再生」の名のもとに学校と地域の連携を行政主導で強められ、教育の国家統制の強化に結びつく動きとなっています。学校支援地域本部事業等はその新たな展開です。

本分科会は、子ども・親・教師・住民による地域における子育ての協同を中心にして、さまざまな子育てネットワークの可能性について語り合います。

共同研究者

河野 和恵 (さっぽろ子育てネットワーク)
鈴木 敏正 (北海道大学)
高倉 嗣昌 (北海学園大学)
大坂 祐二 (名寄市立大学)
山田 定一 (元北海道大学)



18

地域と学校の文化・
スポーツ活動

レポート数
(35)

興味のあるスポーツや文化に参加する時の幸せはこの上ないものです。また鑑賞にあってはしばしば大きな感動を受けることが多くあります。

一方で「お金と暇がない…」という感覚もついて回ります。学校現場でも、予算・授業時間確保の観点から学校祭の日程縮小や芸術鑑賞会の見直しなどが検討される事例もあります。

他方、図書館ネットワーク・読み聞かせボランティア・キャンプ・合唱など市場原理や競争主義と一線を画する活動も健在です。

このような状況の下、地域や学校に暮らす自分を含めた「人間」のために、何が必要で何ができるのか、実践を持ち寄って話し合ってみましょう。

共同研究者

桑原 清 (教育大札幌校)
加藤 多一 (童話作家)

19

国民のための
大学づくり

レポート数
(40)

2009年。

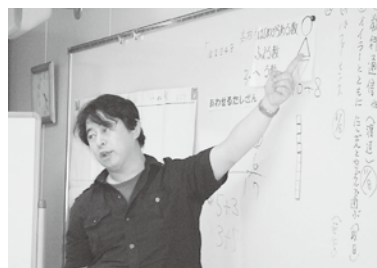
「大学改革」政策は、基盤的経費・運営交付金の削減と競争的資金化による政策誘導によって大学の存立基盤を弱体化させました。この結果、大学間格差の拡大と教育研究活動に深刻な事態を招いています。国立大学は法人化6年目、第1期中期目標・中期計画の最終年度を迎え、大学当局は実績を上げるために必死であり、またきちんとした総括もなく、再び競争と効率化を基調とした第2期中期目標・中期計画を策定しています。政府の進める競争予算や人件費削減は、労働強化・多忙化を招き、非正規職員の増加、評価制度の導入、トップダウンの強化により職場の人間関係は分断され、教職員は肉体的・精神的に疲弊しています。深刻な経済情勢の悪化は、家計の圧迫と国民の貧困化を加速させ、学生の進学機会を奪う事態を引き起こしています。

少子化による学生数の減少、都市と地方の格差の拡大の中で、地方国立大学や私立大学は、地域の文化・経済拠点として、多様な人材の養成、地域社会・産業界との共同研究など社会貢献の努力を続けています。また、学生の学力低下が叫ばれる中で各大学では入試制度や高大連携、カリキュラムの改善、教員養成改善等に力を入れています。今年度から本格実施となった教員免許更新制は、大学側と現場教員側の間に大きな混乱と過重負担をもたらしています。

こうした様々な厳しい状況に置かれている大学・高专での改革や条件整備、教育実践などの内容を交流するとともに、今後の大学（高等教育）がどうあるべきかを、小中高大の教職員・学生・父母と共に討議を発展させていきます。

共同研究者

姉崎 洋一 (北海道大学)
白木沢旭児 (北海道大学)
光本 滋 (北海道大学)



20

障害児・障害者の
教育と福祉

レポート数
(80)

昨年、養護学校増設運動の中、高等養護学校が新設されました。今年、知的障害の養護学校1校に看護師の配置がありました。特別支援教育への期待は高く、各地で児童生徒が増加し、教室が足りな

い。給食が作れなくなりそうなどの教育条件整備の問題が顕著になっています。そして、教育条件の整備が緊急に求められています。更に、新型インフルエンザの流行をふまえた教育環境整備にも注目しなければなりません。

特別支援教育の取組が進められ、全国各地で様々な問題点を克服すべく実践がつけられています。

また、障害者自立支援法が成立し、施設から障害者が出ていかざるを得ない状況に多くの方が反対運動を展開してきました。政権交代を受け更にこの運動を大きくしていかなければなりません。

このような状況を踏まえ、通常学級におけるLDなどの困難を持つ子どもたちの教育実践を含めて語り合います。

共同研究者

岡山 英次 (札幌高等養護学校)
二通 諭 (札幌学院大学)
村田 修 (静内桜風園)
玉島 孝之 (夕張高等養護学校)
北村 典幸 (あかしあ労働福祉センター)



21

環境・公害
と教育

レポート数
(35)

昨年6月に生物多様性基本法が施行され、今年3月には北海道が「北海道環境行動計画（どうみんグリーンアクション）」を策定しました。しかし、各地で公共事業に伴う自然破壊が依然大きな問題となっています。

また、2013年以降の地球温暖化対策の枠組みがいま大きな問題となっていますが、わが国政府の消極的姿勢が内外のNGOから批判されています。

私たちの生存の基盤である環境を保全し、生物多様性を保持するため自然を保護することは、持続可能な社会の実現に不可欠です。このため、環境教育・自然保護教育は、学校のみならずあらゆる年齢層に対して、さまざまな機会に行われる必要があります。

環境保全・自然保護にかかわる多様な実践と経験・知恵を持ちより、環境教育と自然保護教育を豊かにする議論を深めましょう。

共同研究者

江見清次朗 (北海道大学環境保全センター)

川辺 百樹 (ひがし大雪博物館)
寺島 一男 (北海道自然保護連合)



22 平和・憲法、人権・民族と教育

レポート数
(50)

◎平和・憲法

「政権交代」が実現しても、「私たちが平和で安心して暮らす」という願いは、変わりません。そのために、現在の「文化としての平和」についての教育実践を交流し、同時に語り合いませんか。

◎人権・民族

「国際先住民族宣言(07年)」および「アイヌは先住民族決議(08年)」や「有識者懇談報告」を受けて、子ども達の実態を正しくとらえるために話し合いませんか。その事からアイヌ民族の先住民族として保障されるべき基本権・先住権、そして、多文化学習の指導実践例を持ち寄り学習しましょう。さらにはアジアを中心とした諸民族との連帯を深め、戦後未解決問題について話し合いませんか。

共同研究者

奥野 恒久 (室蘭工業大学)
養口 一哲 (本別高校)
原島 則夫 (ほっかい新報)
小川 隆吉 (アイヌ協会)
清水 裕二 (少数民族懇談会)
田中 了 (ウィルタ協会)

23 子ども・青年の発達と教育

レポート数
(50)

新自由主義路線の下、貧困と格差拡大が進行する、大人でさえ生きづらい世の中を子ども・青年たちは時には屈折しながらも精一杯に生きています。

そんな子ども・青年の声に耳を傾けることなく、懲罰主義・徳目主義の教育政策が押し進められて子ども・青年をさらに追い詰め、事態をいっそう深刻にしています。

そんな中、生活苦が進む中でも父母の皆さんは子育てに励み、教職員は多忙化と闘いながら教育活動に取り組んでいます。そして、地域で子ども・青年の発達援助に心を寄せる人々がいます。

その心の奥底にあるのは、子ども・青年の健やかな発達への強い願いであります。その願いに結びつけ、子ども・青年の発達のために、今何をすればいいのか、皆さんの思いと実践を持ち寄り、共に考えましょう。

共同研究者

内島 貞雄 (教育大学旭川校)
富田 充保 (札幌学院大学)

庄井 良信 (教育大学札幌校)

24 不登校・登校拒否・高校中退

レポート数
(60)

学校に行けなくなったり、高校を中退することになったとき、生徒だけでなく、保護者や教員も子育てや教育活動に不十分な点があったのではないかと落ち込み苦悩し、その姿は不安の渦中にある青年たちをさらに追い詰めてしまいます。

不登校・中退の問題は、戸惑い揺らぎながら成長する青年たちをどう受け止め支えるか、という大人や社会のあり方が試されている問題でもあります。生徒たちが連携し、学び合いながら、成長を見守るネットワークを築いていくことが大切です。

本分科会は、教員、保護者、当事者、支援機関など垣根を越えた参加者を得て、互いの実践から学び、課題を共有し理解を深めてきました。今、不安を抱えている方、この問題に関心を持っている方、どなたの参加も大歓迎です。皆さんの思いを持ち寄り、ともに考えましょう。

共同研究者

内田 信也 (北海道合同法律事務所)
田中 敦 (北星学園大学附属高校教育相談室)
ト部 喜雄 (高校教育研究所)
実平 奈美 (童夢学習センター)

2008合同教育研究全道集会の集録

2009

北海道の教育

A5判 2,000円
合同教育研究全道集会実行委員会編



2009 合同教育研究会実行委員会加盟団体

全大教北海道、道私教組、道私大教連、道教組、道高教組、幌保育労働組合、福祉保育労働組北海道地本、建交労北海道本部、建交労札幌学童保育支部、勤医労道本部、札幌市学童保育連絡協議会、新婦人北海道本部、共同映画社、道労働者学習協議会、自由法曹団、憲法会議、平和委員会、リスト者平和の会、子どもと教育・文化道民の会、北海道子どもセンター、道民間教育団体連絡協議会、日本国民救援会北海道本部、安保破棄諸要求貫徹道実行委員会、北海道高等学校退職教職員の会、北海道新英語教育研究会、高校国語サークル、AALA連帯委員会、日中友好協会、札幌子どもを守る会、道農民連、障道協、札幌郷土を掘る会、北海道合唱団、出版労連札幌地協、劇団さっぼろ、道労連、札幌地区労連、道医労連高校センター教育研究所、全障研北海道、ウィルタ協会、札幌保育連絡会、トボス、全北海道退職教職員の会